

発明の権利化と社会貢献

Invention right and social action

単位数：2単位

○中村 守彦 教授：医学系研究科医科学専攻 地域医学共同研究部門

1. 科目の教育方針

研究から生まれる発明の権利化と知的財産に関する基礎知識を講義・セミナー等において習得し、医工連携の研究事例や産学連携による新産業創出およびマーケティングについての特論をオムニバス形式で学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 発明の権利化について把握する。
- 2) 知的財産と知的財産権の概要を理解する。
- 3) 医療領域における知的財産権の概要を理解する。
- 4) 医・理工農連携の研究事例について理解を深める。
- 5) 産学連携による新技術創出の状況を把握する。
- 6) 産学連携を社会貢献の視点から理解する。
- 7) マーケティングや経営戦略を理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 発明の権利化とその意義を説明できる。
- 2) 知的財産権の創造・保護・活用を説明できる。
- 3) 医療分野における知的財産権の重要性を説明できる。
- 4) 医・理工農連携による研究開発にあたり知的財産権を理解し行動することができる。
- 5) 医・理工農連携による実用化の事例を説明できる。
- 6) 研究・開発のマネジメントを説明できる。
- 7) マーケティングや経営戦略について説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。研究事例については、医・看工農連携による成果を体験実習して講義内容を深める。講義は主として面接授業で行うが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、オンライン授業に変更する場合もある。オンライン授業の場合は、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率(2/3以上)を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 参考文献

- 1) 辻本一義：研究・教育・ビジネス現場のための特許・知的財産権の教科書、PHP 研究所、2004.
 - 2) 隅蔵康一：これからの生命科学研究者のためのバイオ特許入門講座、羊土社、2003.
 - 3) 出川通：最新MOT〈技術経営〉がよーくわかる本、秀和システム、2005.
 - 4) 技術経営コンソーシアム編集、三菱総合研究所監修：標準MOTガイド、日経BP社 2006.
 - 5) シェルドン・クリムスキー：「産学連携と科学の墮落」、海鳴社、2006.
- ※他、適宜特許公報、文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	イントロダクション	中村 守彦
2	発明と権利化	中村 守彦
3	知的財産概論	中村 守彦
4	知的財産権 1 (創造)	中村 守彦
5	知的財産権 2 (保護)	中村 守彦
6	知的財産権 3 (活用)	中村 守彦
7	知的財産特論 1 (医療分野)	中村 守彦
8	知的財産特論 2 (医工連携)	中村 守彦
9	医・理工農連携による研究事例 1 (総合事例)	中村 守彦
10	医・理工農連携による研究事例 2 (島根大学の医工連携事例)	中村 守彦
11	医・理工農連携による研究事例 3 (島根大学の医農連携事例)	中村 守彦
12	看工連携の事例紹介 (島根大学)	中村 守彦
13	看農連携の事例紹介 (島根大学)	中村 守彦
14	知的財産戦略 (島根大学の事例)	中村 守彦
15	総合討議 (まとめ)	中村 守彦